

国際青年環境NGO
A SEED JAPAN
いのち×ローカルな農業プロジェクト
国際シンポジウム

有機認証ラベルで
農業をグリーン
ジョブにしよう!

2010
1.31st

「グリーンジョブ」とは、環境の保全に貢献し、人間らしく働ける仕事のこと。
農業をグリーンジョブにすることは、自然との調和を目指す「有機農業」を
仕事にする人がそれで人並みの生活を営むことができ、
働きがいと誇りを持てるようにすること。
これを実現するカギのひとつが「有機認証ラベル」だ。
有機認証ラベルは生産者と消費者を結ぶ。
消費者が、環境に配慮した安全な食品を選び、
「有機農業は必要だ」と意思を表明するための目印になる。
今、農業をグリーンジョブにするためには
「信頼される有機認証ラベル」が必要だ!

日時 1月31日(日) 13:30受付開始 14:00～17:30
場所 YMCAアジア青少年センター スペースワイホール
東京都千代田区猿樂町2-5-5
JR水道橋駅徒歩6分・御茶ノ水駅徒歩9分
定員 200名(要申し込み)
参加費 ASJ会員 500円・学生 700円・社会人 1000円

主催  国際青年環境NGO A SEED JAPAN
いのち×ローカルな農業プロジェクト www.aseed.org

本イベントは地球環境基金の助成を受けて開催いたします。

有機認証ラベルで
農業をグリーン
ジョブにしよう!

「有機認証ラベル」が有機農業を推進?!

身近なところで有機農産物を購入できる!→消費者が有機農産物を買う機会や知るきっかけが増える→有機農家の販路ができる→有機農家の生活が成り立つ→いろいろなところで有機農産物を購入できる!・・・こういった「有機農業」を広めるスパイラルに「信頼される有機認証ラベル」は大きく貢献する。例えば、スウェーデンのほとんどのスーパーでは有機認証ラベルの「KRAV」のコーナーがあり、マークの認知度はなんと98%。言い換えると、「有機農業」という仕事を支える消費者がたくさんいるということでもある。そんなスウェーデンでは、約20%の農家さんが有機農業を営む。

日本農業をグリーンジョブにする「有機認証ラベル」って?

一方、東京で「国産有機」を買おうとすると、一苦勞。そもそも、「有機JAS」マークの認知度は30%ほどで、農家さんのうち有機農業を営んでいるのは1%にも満たない。「有機認証ラベルがある」だけ、では「有機農業」は広まらない。それを「活かす」政策や市民のアクションが必要だ。それは具体的には何なのか?多彩なゲストを招き、「農業をグリーンジョブにする有機認証ラベル」について議論する。日本にオーガニックを広めたい人、食や農に関心のある方は是非ご参加を!

PROGRAM

1 ショートスピーチ ツルネン・マルティ氏 (民主党議員)
日本で作られる農産物の50%を有機農産物に!

2 基調講演 グンナー・ランドグレン氏
有機認証ラベルがスウェーデンを変えた?
ーわたしが有機認証団体KRAVを創設した理由ー



グンナー・ランドグレン氏

有機認証ラベルの第一人者。世界中でも先駆的な有機認証団体であるスウェーデンの「KRAV」の創設者。有機農業推進するを国際的NGOであるIFOAM(アイフォーム:国際有機農業運動連盟)の世界理事長を経て、現在は有機農業による国際農村開発コンサルタント会社グローリンクのCEO。

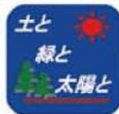
3 パネルディスカッション 20~30代が考える農業対談!
農業をグリーンジョブにする方法 ー有機認証ラベルの役割とは?ー

日本の農業がグリーンジョブになるための課題はなに? 「有機農業」ってなに?
有機認証ラベルのある「有機農産物」と有機認証ラベルのない「有機農産物」、どっちが大事?



笠原秀樹さん

千葉県流山市の循環型小農園「自然農園レインボーファミリー」代表。
年間約60種類の野菜を有機栽培し、放し飼いのニワトリ約300羽を飼育。
口コミで消費者を獲得し、就農7年目となる。
「農家のこせがれネットワーク」や「丸の内朝大学」講師でも活躍。



「農事組合法人さんぶ野菜ネットワーク」の若手農家さん

千葉県山武市の「さんぶ野菜ネットワーク」では、地域と連携しながら有機農業を実践し、有機JASの認証面積は38ha。また、「いのち」に直結した食べ物を供給することを常に意識し、消費者と顔の見える関係作りを目指す。「ワタミファーム」や「大地を守る会」とも協力関係にある。

木村真衣子さん(自然食品店 店長)

三好智子さん(有機JAS認定機関 元職員)

鈴木亮さん(日々の食事の国産有機農産物率を上げようとするチャレンジャー)

コーディネーター 小泉晶子(いのち×ローカルな農業プロジェクト理事)

お申込方法

1.27 WED
申込締切!

下記の申込項目とアンケートをご記入いただき、**件名を「いのち×ローカルな農業・国際シンポジウム」**と明記の上、E-mailで **A SEED JAPAN 事務局 info@aseed.org** までお送りください。

お名前(ふりがな) / 職業 / TEL / E-mail / ASJ会員:会員・非会員学生・非会員社会人 / イベントへの参加動機、当日知りたいこと ※可能な範囲で当日の内容に反映させていただきます。

アンケート ① 「有機JAS」を知っていますか?どんなイメージがありますか?

② 「有機認証ラベル」は持続可能な農業を推進するために必要だと思いますか?

